

TTC 提案山行実施記録表 2013年8月15日 報告者: 坂本 達治 (1/4)

山行名	塩見岳[3,047m 長野/静岡]・農鳥岳[3,026m 静岡/山梨]
実施日	2013年8月10日[土]~13日[火] 3泊4日 公共交通機関利用
天候/ 参加人員	天候:8/10:晴、8/11:晴、8/12:晴、8/13:晴、 レベル:★★★★☆ 参加者:申込4名/実施4名(男性3名/女性1名)
パーティスタッフ	CL/計画/:、 SL/:、 会計/:、 救護/写真: <b>スタッフ名削除</b>
参加メンバ	<b>氏名削除</b>
費用 一人当たり <b>39,350円</b>	<p>【交通費】 本厚木駅~八王子駅~伊那大島駅(電車):@6,530、 伊那大島駅~鳥倉登山口(バス):@1,620+@810(荷物代)、 奈良田温泉駅~下部温泉駅(バス):@800+@200(荷物代)、下部温泉駅~本厚木駅:@3,540 交通費小計:¥13,500/人</p> <p>【宿泊費】 三伏峠小屋:@8,000、熊の平小屋:@8,000、大門沢小屋:@7,500 宿泊費小計:¥23,500/人</p> <p>【その他】 入湯料&amp;休憩:@1,500、通信費:@250、共同食他:@600 その他小計:¥2,350/人 総計:¥39,350/人</p>

歩行/行動時間

	8/10[土]			8/11[日]			8/12[月]			8/13[火]		
	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動	歩行	休憩	行動
ガイドブック	2:50	-	-	9:30	-	-	7:00	-	-	3:20	-	-
計画	2:55	0:35	3:30	9:50	2:30	12:20	7:20	2:00	9:20	3:25	0:45	4:10
実行	2:15	0:29	2:44	8:01	3:14	11:15	8:01	2:44	10:45	3:21	0:39	4:00

実行コースタイム記録

<b>8/10(土)</b>	[JR 特急あずさ1号]	[昼食]	バス	0:30	0:20	0:37
本厚木駅====厚木駅====八王子駅====上諏訪駅====伊那大島駅====鳥倉登山口----\$(小休止)----\$----						
6:25	6:26-31	7:20-29	9:14-19	11:37-12:10	14:03-23	14:53-15:00 15:20-32
0:19		0:29				
----水場-----8/10 地点-----9/10 地点-----三伏峠小屋						
16:09-11	16:30-38	16:45	17:07			
<b>8/11(日)</b>	この間ミコスのため0:33 ロスタイム	0:09	1:08	0:46	0:34	0:30 0:37 [昼食] 0:28
三伏峠小屋---(---水場---正規の分岐まで戻り---)---三伏山---本谷山---\$---塩見小屋---\$---塩見岳(東峰)-----						
3:30 起床-4:10	4:30	4:43	4:52-57	6:05-12	6:58-7:06	7:40-55 8:25-35 9:12-10:10
0:15	0:23	0:37	[水汲み]	0:11	0:35 0:40	1:08 (0:20 0:25)
---北俣岳分岐---\$-----\$-----北荒川岳キャンプ場跡---北荒川岳---\$-----\$-----熊の平小屋---pickupに戻る---熊の平小屋						
10:38-40	10:55-11:05	11:28-33	12:10-45	12:56-13:00	13:35-45 14:25-50	15:58-16:15 16:35 17:00
<b>8/12(月)</b>	0:27 0:14	0:31 0:15	0:47	0:16	0:23 0:33	0:46 [昼食] 0:34 <b>0:20</b>
熊の平小屋---\$---農鳥分岐---\$---水場---コル---農鳥小屋---\$---西農鳥岳---農鳥岳---大門沢下降点---						
4:30 起床-5:35	6:02-07	6:21-23	6:54-56	7:11-22	8:09-22	8:38-9:07 9:30-35 10:08-12 10:58-11:46 12:20-25
<b>0:35 0:35 0:35 1:10</b>						
---\$-----\$-----\$-----河原出合---大門沢小屋						
12:45-55	13:30-40	14:15-25	15:00-10	16:20		
<b>8/13(火)</b>	0:45[朝食]0:41	0:25	0:05	0:15	0:09	0:04 0:27
大門沢小屋---\$---河原出合---河原出合---吊橋1---吊橋2---吊橋3(もりやばし)---林道出合---奈良田第一発電所---						
4:30 起床-5:05	5:50-6:07	6:48-55	7:20-25	7:30	7:45	7:54 7:58-8:08 8:35
0:30	[入浴, 昼食]	[早川乗合バス]	[JR ふじかわ7号]	[JR かいじ118号]		
---奈良田温泉 女帝の湯-----下部温泉駅-----甲府駅-----八王子駅-----本厚木駅						
9:05-13:50	14:59-15:13	15:57-16:14	17:18-25	18:45		

【注記】 8/11の青太字で示した記録はCLが単独で早歩きで歩行した際の時間を、また、8/12の赤太字で示した記録は体調不良者が出たため特別にスピードを落として歩いた時間を示している

例年、お盆を挟んで設定される(仕事上の)夏休みを利用して、昨年は南ア南部縦走を計画し実施したが、雨にたたられかなり厳しい山行であった。今年も同時期に南ア塩見岳・農鳥岳の3000<sup>+</sup>峰2座を征服する内容で計画したところ、日本列島がすっぽりと高気圧に覆われ、ずっと晴天続きの予報である。しかも各地で40℃前後の猛烈な暑さが伝えられており、高地は当然のことながら涼しいので絶好のタイミングと、ほくそ笑みながらの出発であった。

**8/10(土)** 定刻に本厚木を出発し伊那大島に向かうが、八王子からの特急はお盆休みに近いこともあって、指定席は既に満席であった。やむなく自由席を利用したが、甲府辺りまではすし詰め状態でその後やっと座ることができた。伊那大島からはバスに乗継ぎ1時間50分ほどで鳥倉登山口に到着。既に標高は1800<sup>+</sup>近くあるが結構蒸し暑い。念入りに身体をほぐし、登山届を提出してほぼ計画通りの出発となった。隊列はCL、HMさん、OKさん、OMさん(SL)とし、スタートして暫くは身体が馴染んでいないので特にゆっくり歩を進める。樹林帯が強い陽射しを遮ってくれるのは有難いが風がほとんどなく蒸し暑さが増してきて、思うように足が上がらない。それでも2000<sup>+</sup>を超えた辺りから急に涼しくなってきた快調に進みだし、途中で冷たい湧き水に元気をもらって、計画より40分ほど早く山小屋に到着した。比較的空いて10人ほどはゆっくり寝ることができる個室が我々4人に当てがわれラッキーであった。本日は2時間強しか歩いていないためか冷たいビールに対する強い欲求もなく早々に眠りにつき、2日目のロングコースに備えることにした。

**8/11(日)** 計画では行動時間が12時間以上の4日間の中で最もハードな1日となる。本日の宿泊先である熊の平小屋は事前確認した際に「予約不要、16:00までに到着しないと夕食不可」と言われていたので、夜明け前の3:30出発で計画していたが、小屋の主人から「熊の平に行かれる方は皆さん5:00頃に出発されますよ」との情報があつた。それでも山際がうっすらと明るくなってきた4:10分の出発として余裕を確保した。足元はまだ暗くヘッドランプでよく照らしながら確実に進んでいくが、小屋を出て数分のところにある『塩見岳方面と水場の分岐』を完全に見落として水場の方に進んでしまった。水場で完全に行き止まりで、ここで確認して初めてミスコースに気がついて分岐まで戻る羽目になり、折角余裕をみてスタートしたのに33分のロスとなってしまった。分岐まで戻るとかなり明るくなっており、通常であればどうやっても見落とすことはありえない立派な道標が立っていて、「足元ばかりを見て歩くのは駄目！」と反省させられた。このいきなりのロスタイムが心に残っていて、この後の歩行に微妙に影響を及ぼすことになる。三伏山、本谷山を経由して塩見小屋までアップ・ダウンを繰り返しながら順調に進んで行くが、この先にある塩見岳の登りに備えてここでやや長めの休憩を取って鋭気を養う。眼前には甲斐駒、仙丈、間ノ岳、北岳がよく見えている。塩見岳の登りは3点確保で確実に登っていく岩場があり結構体力を消耗する。4名が少しずつばらけて、前の2名と後ろの2名になったり、追いついたりしながら進んで行ったが、塩見岳(東峰)への到着は前後2名ずつが15分以上、間が空いてしまった。後から考えると、後ろの2名にはマイペースで進んでいただくよう話していたが、ここら辺りからかなり体力を消耗されていたようである。晴天に恵まれ、槍ヶ岳～穂高連峰や八ヶ岳、富士山も遠望することができ360度パノラマビューを満喫してから、塩見岳の直下にある肩(平地)に降りてかなり長めの昼食時間を確保して体力回復を図ったが、照りつける陽射しがとても強く、これが予想以上に体力を消耗していった。塩見岳を出発して北俣岳分岐を過ぎた辺りから、かなり急な下りでガレ場となって歩きにくくなる。ここら辺りからOMさんの足取りが急におぼつかなくなった。休憩して水分を補給するとともにOMさんの荷物を他の3名のザックにいくつか移して体制を立て直して進んで行くと、かなり持ち直してシッカリと歩けるようになった。ところが更に進んで北荒川岳キャンプ場跡に着くと今度はOKさんが「熱射病にやられたみたいで気分が悪い」と言われ始めた。ここから『熊の平小屋まで3時間』の看板があり、時間的には少し余裕が残っているものの、この暑さの中で残った飲料水も心もとない。確認するとキャンプ場跡からしばらく下ったところに水場があるとの情報が確認できたので、ルートも無いかなり荒れた急斜面ではあったが、CLとHMさんと水汲みに降りることにした。この水がこの後、命の水となった。ここで35分間ロスし、この後、歩行スピードが格段にダウンして、更に25分のロスタイムが発生してよいよ小屋への16:00到着が厳しくなってきた。熊の平小屋での自炊を想定して共同食の準備はしてあるが、できれば小屋の夕食を食べることができればより良いので、CLが単独で小屋まで先行することにした。残る3人については、HMさんを実質的なSLとして、急がずにゆっくり来てもらうことにした。コースタイムの**青太字**で示した記録は注記にも記してあるように、CLの急ぎ足での時間を表しているのので、参考にする場合には考慮いただきたい。キャンプ場跡以降もアップ・ダウンが結構あり、やっとの思いで小屋にたどり着いたときは15:58であった(後で確認すると、「予約時には一応そのように説明しているが、できる範囲で融通している」とのことであった。実は昨年の百間洞山の家も同様に夕食16:00制限があって、この時は15:55に到着して揚げたての豚カツを美味しく頂くことができたが、少し遅れてきた他の客が全員の食事が終わるまで後回しにされ、寂しそうにカレーライスを食べていた姿が脳裏にあったので、小屋食をメンバーの皆さんに何とか食べていただきたいという強い思いがあった)。小屋の手続きを終えたがまだ仕事が残っている。コンコンと湧き出る小屋の冷たい水500ml\*4本を確保し、レインウェアとヘッドランプ以外の荷物を全てビニール袋に分けて小屋に預け、ほとんど空身のリュックを背負って後方の3名をピックアップするため、来た道を登り返した。20分ほど戻ったところでようやくメンバーと合流できた時にはホッとして暫くは歩き出すことができなかつた。熱中症ぎみだったOKさんは途中で嘔吐したとかで体調が更に悪化している様子であり、ほぼ空身のリュックをOKさんのリュックと交換して、ゆっくりと小屋に戻った。OKさんは食欲が全くないとのことで夕食の時間を待たずにすぐに横になってもらった。一方、足取りがおぼつかなくつたOMさんは夕食時間まで待ちきれないようで、栄養ドリンクやみつ豆を購入しておいしそうに食べている姿を見て

随分と回復されていることが分かり少し安心した。また OK さんも 1 時間ほど休むとかなり回復されて、全く (3/4) 受けなかった食べ物を少しは口にされるようになり、こちらも一安心であった。寝床は蒲団を 1 人に 1 枚敷く場合でも 6 名は寝られる一角を我々 4 名に当てがわれ、本日も快適スペースを幸運にも確保することができた。明日も累積標高差で 765m の登りと 1620m の下りが待っており、早々に就寝することにした。本日は本当に疲れ様でした！

**8/12(月)** 5:00 からの朝食でメンバーの食欲をそれとなくチェックしてみると、皆さんある程度以上に食べられており、体調は完璧とはいかないまでも、かなり回復されていると判断した。それにしてもこの小屋の味噌汁はシンプルであるが出汁(だし)がきいていてかなり美味しい。その上、おかわり自由というのがありがたい。眼前に本日登る農鳥岳をクッキリと見上げることができ、あそこまでいくのかとやや気がめいるが、味噌汁パワーと朝のさわやかな冷たい風に元気を貰って、計画より 25 分早く出発する。本日も晴れである。昨日前半の元気モリモリの頃には、間ノ岳に登ったことがないというメンバーが 2 名いて、「1 時間半ほどプラスして歩けば行くことができるので、条件によっては行くか？」という話も出ていたが、歩き出して直ぐに、「間ノ岳を回るといふ話はもうありません！」と告げると、異論を唱えるメンバーは一人もいなかった。三国平から分岐を右手に巻き道を進む。なだらかな道を想像していたが、大きな岩やガレ場のアップ・ダウンがあり、歩行としては変化があって楽しいのだが、結構大変である。水場でのどを潤し、農鳥小屋に向かう最後のガレ場の登り手前で十分な休息を取ってから登っていくと、稜線上に農鳥小屋が広がっている。真っ黒に日焼けした声の通る名物の親父さんがテキパキと仕事をしている。受付小屋の前を通過時にフッと見ると、『ここを 9:00-10:00 に通過して普通に歩けば、奈良田温泉まで十分に降りることができる』との案内があり、民宿の予約を受けていた。時計を確認すると 8:50、民宿のふかふかの蒲団と美味しい食事、温かい風呂が頭をよぎり、更に発電所のゲートまで車で迎えに来てくれるというから歩行を 30 分以上省略できることを考えるとかなり魅力的である。メンバーに諮って確認したところ賛同が得られたので、予約をお願いした。このときは汗臭さから一気に開放される目標ができ、足取りは軽くなった気分、西農鳥岳、農鳥岳へと順調に進んでいった。どちらの山頂でも展望は相変わらず素晴らしく、昨年、横殴りの冷たい雨の中をひたすらに耐えて歩いた荒川三山が目の前に広がっており、山座同定がキチントできれば、ヒョットすると聖岳や光岳も見えているのかもしれない。農鳥岳山頂の直下にある肩(平地)で非常用に準備していた共同食のチキンラーメンを食べたが、これがまた格別に美味しく感じられた。ここまで来ると基本的にもう登りはなく、大門沢下降点を経て急斜面を下るのみである。ところがこの下降点からしばらく進んだ辺りから、OM さんの足取りが急激におかしくなった。足元がフラフラし、踏ん張りが利かない。急斜面の岩がゴロゴロの場所であり、中にはかなり切り立っていて一歩間違えば滑落という場所がいくつもある。この急斜面は何としても自力で降りていただくしかないので、荷物を CL と HM さんで出来る限り分担して、危険な箇所は指示を出しながらの下降となった。歩行速度は格段に低下し、先ほど追い抜いてきた 20 数名のツアー団体にも簡単に追い越され、その他のチームにも次々に追い越されていくが、こまめに休憩を取りながら慎重にゆっくりと 1 時間半以上進んでいくと河原に出合った。ここからは斜度が多少ゆるくなり、更に 1 時間 10 分かけて大門沢小屋にやっとの思いでたどり着いた。更に奈良田温泉まで降りることなど夢のまた夢の状態であった。小屋は満員で、最初の 2 日間とは打って変わって蒲団一枚に 2 名という、すし詰め状態である。おまけに夕食も不味く、トイレも最悪、我々は利用しなかったがシャワーが 500 円で利用できることだけが良い点としてあげることができる山小屋であった。最終日は下山後の奈良田温泉で入浴、昼食、休息に 3 時間 40 分を確保する余裕のある計画としてあったが、時間を全く気にすることなく兎に角、ゆっくり歩くことができるように、朝食を弁当に変更して出発時間を 1 時間早めることにした。寝返りもままならない寝苦しい一夜であったが、明日を何とか乗り切らねばとの思いで一杯であった。

**8/13(火)** 小屋情報によると天気予報は『晴後曇、降水確率 40%』となっていたが、雨が降る気配は全くない。4 日間本当に良い天候に恵まれ、この点では申し分なかった。3 日目の体制をそのままキープし、『無事に下山』だけを念頭に降りていった。結果として、ほぼ計画通りの時間で下りてくることができたので、『奈良田町営 女帝の湯』では 4 時間 45 分の休憩時間があり、のんびりと疲れた身体を休めることが出来た。ここは小高い丘の上であり、前を流れる早川を吹いてくる風が爽やかで、4 日間の疲れや緊張を癒してくれる。奈良田温泉で心身ともにリフレッシュして帰路に向かうが、多少の電車の遅れがあって乗継ぎが悪く、本厚木には 30 分ほど遅れて 18:45 に到着した。今回の山行では体調不良者が出る中でメンバー間の協力の重要性を改めて思い知らされたが、その中でも紅一点で参加された HM さんの絶大なサポートがなければ計画通りの日程で下りてくることはできなかつたと思われる。最後になるが、ここで心よりお礼を申し上げたい。ご本人も風邪気味で毎夜、咳き込まれていてずっと体調不良であったというから、なおさらである。参加メンバーの状態をいつも気にかけて、「何とかしなければ！」という強い気持ちで行動していただいたお蔭で下山口に無事に下りてくることができた。特に、小屋に到着後に自身も疲れていることは明らかなのに、他のメンバーのマッサージをかけて出て、揉みほぐしていただいた優しさには涙が出るほどありがたみを感じ、疲れと緊張でパンパンに張った身体がスーッと楽になった。今回ほど下山口に降り立ったときに、『無事に下りてくる』という CL としての最低限の責務を果たすことができホッとしたことはない。

以下に、参加メンバーのコメントを記します。

**【OM さんのコメント】** この縦走に向けて身体を作るため 7/28-8/7 の間で大山に三回登り、靴、荷物、ザック等の重量や条件を変えて備えました。今回の山行は公共の交通機関利用なので登山靴は手荷物とし、スニーカーの軽装で、装備重量は 9.5kg、水を含めて 12kg 程度と計算して参加しました。一日目は予定通りの行動で三伏小屋に着きましたが、二日

目は急登とアップ・ダウンを経て今回最大の山場である塩見岳に到着して食事を終え、再出発後の北俣岳分岐を（4/4）過ぎた辺りでCLは私の体調の悪さに気付く、私の荷物を軽減する指令を出しました。CL始め三人で持って頂いたお蔭で足も軽くなりましたが、ペースは上らず、シンガリをHMさんに変えました。しかし、熊の平小屋までの仙塩コースは長く小さなアップ・ダウンが延々と続き、このペースだと小屋で食事は出来ないとの判断で私たち三人をHMさんに任せ、水の少ない状況も頭に入れてCLは小屋に向かいました。OKさんも熱中症気味と言出し、私より体調が悪い感じでした。そんな中でHMさんは変わった様子はなく、あまりの元気の良さに本当に驚きました。言葉は悪いですが「すげえ女だなー」と改めて後ろを振り返り安心感がどっと湧きました。そんな時CLの「オーイ」という声が聞こえました。熊の平小屋より戻って来たのです。一瞬、ワーと歓声が上がりました！「冷たくて美味しい水を汲んで来たぞー！」との声で更に早く飲みたいと急に元気が湧きました。安倍荒倉岳付近の景観の良いところでしたが、私は「あと小屋まで40～50分位？」とCLが来る前にオーバーに告げていました。CLの「小屋には予定の16:00の2分前に着き、冷たい水を汲んできたから美味しいので早く飲んで、20分位頑張れば着くよ！」との言葉に励まされ、計画に対し1時間程遅れましたが小屋に到着しました。この時OKさんの体調は芳しくありませんでした。三日目、大門沢小屋を目指し5:35に出発。三国平の間ノ岳との分岐を右に進み農鳥岳の稜線を目指しました。稜線手前の水場で気持ちを高揚させ、《CLはカナダ女性にお熱かな？数回会って会話を楽しんだ様子！羨ましい！『やきもちゴメン！男は幾つになっても馬鹿だね！』》、稜線を右に農鳥岳を目指しました。ここからは2007年9月白峰三山山行の記憶が少しずつ戻ってきました。あの時は天候に恵まれず今回のCLの人柄を表すような好天ではなかった。農鳥小屋の親父は相変わらず口達者であった。足はきつかったが何とか登り、農鳥岳で食事を済ませた。初めてラーメンを山で食べたがこれが実に上手かった！のど越しが実によい。TTCで数人の方がよく食べているが麺だけでも本当に上手いし、これでは止められないだろう！大沢下降点後しばらく行った所で、CLが私の状態を見てHMさんをSL・シンガリにし、私の荷物をCL、SLがサポートしてくれたので身軽になり1,000m以上の急下降が厳しい大門沢小屋までの2時間半を歩くことができ、助かりました！今夜は一枚の蒲団を二人で使うが、明日の行程は短く温泉にも入れるので頑張れるだろう。四日目の奈良田温泉までは丸太橋が最大の難所である。6年前は台風6号が通過し、雨風が厳しく、はしご状に打ち付けたサンも折れていて、濡れた丸太も滑りそうで私は四つん這いになり大木にしがみついて恐怖を感じながら渡ったことが脳裏に有り心配だった。ところが今はかなり整備されていて吊り橋も美しい景色を生み出していた。CLも私の話に不安を感じていたようだが景観を楽しんで渡っていた。奈良田温泉で充分時間を取り心よりくつろぐことが出来、登山の楽しさと喜びを満喫できたのはCL始めメンバーの皆さんの助けがあったからこそであり、本当に感謝です。

**【HMさんのコメント】** 山行数日前から風邪気味で、不安を抱えながらの出発であった。何といたっても一番きつかったのは2日目の塩見岳の登りと熊の平までのアップ・ダウンだった。長時間歩行の上、樹林帯もなくジリジリとした太陽の日差しに体力を奪われてしまった。それでも塩見岳頂上では、360°の素晴らしい展望に疲れが癒された。熊の平小屋は4時までに到着しないと夕飯を取ることができないということで、CLが単独で必死の思いで小屋にたどり着き、手続きを済ませてから、また水を担いで3人のところまで登ってきてくれた時には、まさに、「地獄で仏」の心境になった。大門沢小屋では、たまたま見上げた星空に大きな流れ星を見ることができた。生まれて初めての体験に感激冷めやらず、真っ暗な空間にしばし一人でたたずんでいた。帰宅後、夫から「ペルセウス座流星群」と聞き、そんなチャンスに遭えたことの幸運を改めて感じた。4日間、体調に不安を持ち続けての山行であったが、何とか無事に帰ってくる事ができたことに本当に感謝である。CLはじめ苦労を共にしたメンバーに「本当にお疲れ様でした」という気持ちで一杯だ。

**【OKさんのコメント】** ピーカンの天気が続く、南アルプスの遥か彼方の山なみまで見えていました。その分、日差しは容赦なく照りつけ、暑さ負けし体調を崩してしまいました。日差しが強い時は、つばの大きな帽子、首筋をタオルなどで隠すことが重要らしく、今回、長袖Tシャツだったので後頭部が熱せられたようで、HMさんに水を含んだタオルで首筋を冷やしていただき、適切な対処により症状が緩和されました。本当に助かりました。今回のために購入したタイツCW-Xが膝の保護の為には驚くほど有効でしたが、反面、下半身が蒸れ、腹部の締め付けに違和感がありました。また、伊那大島で購入した期限切れのパンによる胃腸機能の不具合、そして、荷の分担に耐え切れなくなって暑さ負けしてしまったことに体力の無さを感じました。さらには、準備した水が足りなくなり、CLとHMさんと、水場まで給水に行き行って補給して頂きました。そしてCLには先発で小屋の夕食の予約に行き行ってまた迎えに来て頂いて荷を持っていただくという、大変なお気遣いを頂きました。おかげで、翌日に症状を持ち越すことなく完登することができました。ありがとうございました。

**【CLの反省コメント】** ・日頃から歩行スピード早いと言われ続けており、できるだけゆっくり歩こうと思うのだが、今回も全般的に早過ぎたとのコメントがあった。体調不良者が出たが、オーバースピードが要因の1つとも考えられる。  
・下界では40℃前後の猛暑であったが、3000m峰は涼しく比較的過ごしやすかったものの、晴天続きで陽射しが強烈で熱射病の症状を訴えるメンバーが出た。熱射病対策についてももう少し配慮すべきであったように思う。  
・3日目、行程途中の農鳥小屋に9:00前に到着した際に、『普通に歩けば奈良田温泉まで十分に降りることができる』との情報に惑わされ、一端は宿泊先を奈良田温泉の民宿に変更する決断をしてしまった。結果としては全く無理で、自分の立てた計画にもっと自信を持っていれば、このような誤情報に惑わされることはなかったと痛く反省している。  
・体調不良者が出た場合にはメンバー間の互助が不可欠であるが、実際にこのような状況に遭遇した場合の判断の難しさを痛感した。